

大学等名	同志社女子大学
プログラム名	DWCLAデータサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違しない

③ 修了要件

リテラシーレベルの修了要件はプログラムを構成する授業科目「データサイエンス基礎」(2単位)を修得することである。

必要最低単位数 2 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

- ⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス基礎	2	○	○	○	○						

- ⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス基礎(8回目)	4-7データハンドリング		
データサイエンス基礎(13回目)	4-8データ活用実践(教師あり学習)		
データサイエンス基礎(14回目)	4-7データハンドリング		

- ⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・第4次産業革命、Society 5.0「データサイエンス基礎」(1回目)(2回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス基礎」(1回目) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、データ量の増加「データサイエンス基礎」(2回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「データサイエンス基礎」(3回目)
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「データサイエンス基礎」(1回目)(2回目) ・AI最新技術の活用例「データサイエンス基礎」(1回目)(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・構造化データ、非構造化データ(文章、画像／動画、音声／音楽など)「データサイエンス基礎」(3回目) ・1次データ、2次データ「データサイエンス基礎」(7回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス基礎」(7回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動)「データサイエンス基礎」(2回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・AIとビッグデータ「データサイエンス基礎」(2回目) ・データ解析: 予測、パターン発見「データサイエンス基礎」(2回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像／動画処理、音声／音楽処理など「データサイエンス基礎」(2回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ること、出来ないこと「データサイエンス基礎」(3回目) ・ルールベース、自動化技術「データサイエンス基礎」(3回目)
	1-5	・流通、金融、サービス、インフラ、公共等におけるデータ・AI利活用事例「データサイエンス基礎」(2回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「データサイエンス基礎」(3回目) ・個人情報保護「データサイエンス基礎」(4回目)(8回目)(14回目) ・オプトアウト「データサイエンス基礎」(8回目) ・データ倫理: データの捏造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データサイエンス基礎」(4回目)(14回目) ・データバイアス「データサイエンス基礎」(4回目)(14回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス基礎」(4回目)
	3-2	・情報セキュリティ: 気密性、完全性、可用性「データサイエンス基礎」(4回目)(14回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「データサイエンス基礎」(4回目)(8回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス基礎」(4回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「データサイエンス基礎」(8回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データサイエンス基礎」(9回目)(10回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「データサイエンス基礎」(9回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「データサイエンス基礎」(10回目) ・相関と因果(相関係数、類似相関)「データサイエンス基礎」(12回目)(15回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、多段抽出)「データサイエンス基礎」(8回目) ・相関係数行列、散布図行列「データサイエンス基礎」(12回目) ・クロス集計表「データサイエンス基礎」(11回目)(15回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図)「データサイエンス基礎」(6回目)(13回目)(15回目) ・データの図表表現(チャート化)「データサイエンス基礎」(15回目) ・不適切なグラフ表現(不必要な視覚的要素)「データサイエンス基礎」(6回目)
	2-3	・データの集計(和、平均)「データサイエンス基礎」(5回目) ・データの並び替え、ランキング「データサイエンス基礎」(5回目) ・表形式のデータ(csv)「データサイエンス基礎」(9回目)(10回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・社会とデータの間を倫理的・制度的・技術的な側面から考えることを通して、データサイエンスの意義を理解することができる。
- ・データに基づく課題解決の基礎的な方法論を習得する。
- ・表計算ソフトウェアの利用・実習を通して、データの性質に応じて適切な分析手法を選択し、基礎的な集計と統計解析ができるようになる。

プログラムの履修者数等の実績について

- ①プログラム開設年度 令和4 年度
- ②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
学芸学部	1,303	325	1,290	208		208	182		182	0			0			0			0			0			0			0			0			208	16%						
現代社会学部	1,617	410	1,630	328		328	310		310	0			0			0			0			0			0			0			0			328	20%						
薬学部	762	125	735	113		113	108		108	0			0			0			0			0			0			0			0			113	15%						
看護学部	369	90	350	36		36	33		33	0			0			0			0			0			0			0			0			36	10%						
表象文化学部	1,095	270	1,075	197		197	177		177	0			0			0			0			0			0			0			0			197	18%						
生活科学部	974	230	905	216		216	211		211	0			0			0			0			0			0			0			0			216	24%						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
合 計	6,120	1,450	5,985	1,098	0	1,098	1,021	0	1,021	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,098	18%						

大学等名 同志社女子大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 202 人 (非常勤) 715 人

② プログラムの授業を教えている教員数 3 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 真部 真里子

(役職名) 教務部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

教務部主任会

(責任者名) 真部 真里子

(役職名) 教務部長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

教務部主任会申合せ

⑥ 体制の目的

教務部主任会は本学の教育の充実及び発展を目的に、(1)教育制度に関すること、(2)カリキュラムに関すること、(3)教育設備、教育環境に関すること、(4)学修支援に関すること、(5)教育評価及び改善に関すること等を検討している。

⑦ 具体的な構成員

教務部主任会は真部 真里子(教務部長)、牛渡 克之(音楽学科教務主任)、村木 美紀(メディア創造学科教務主任)、Maria L. Correa(国際教養学科教務主任)、記虎 優子(社会システム学科教務主任)、梅垣 明美(現代こども学科教務主任)、前川 京子(医療薬学科教務主任)、木村 洋子(看護学科教務主任)、崎 ミチ・アン(英語英文学科教務主任)、中井 精一(日本語日本文学科教務主任)、齋藤 朱未(人間生活学科教務主任)、森 紀之(食物栄養科学科教務主任)、江守 聡(教務課長)、三角 典生(免許・資格課長)、高橋 毅(教務係長)、計15名を委員として構成しており、事務局は教務部教務課が担当している。

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	18%	令和5年度予定	38%	令和6年度予定	56%
令和7年度予定	73%	令和8年度予定	91%	収容定員(名)	5,985
具体的な計画					
本プログラムは全学部・学科の1年次生を対象とした「選択」科目として設定しており、2022年度は「データサイエンス基礎」1科目を開講した。新入生の履修登録期間(4月)および秋学期の登録修正期間(9月)にあわせて履修を促すフライヤーを作成し、Web教務システムの機能を利用して、1年次生の上に個別にメールを配信するなど、積極的な告知を行った。また、各学科での新入生オリエンテーション期間において、積極的に履修指導を行った。2023年度に向けては、本学Webサイト内に特設サイトを構築し、受講生の感想を掲載するなど、新入生の受講意欲を喚起するとともに、2022年度同様に履修指導や履修を促すフライヤー等において告知を行っている。今後は、「DWCLAデータサイエンスプログラム」の 프로모ーション動画(3分程度)を作成し、学内外への広報を行っていきたくと考えている。2024年度以降については、新たなプログラム(DWCLA-ADa)として始動する予定をしており、2023年度までは「選択」科目として設定していたが2024年度からは「選択必修」科目として設定する予定である。対象を1年次生のみとしているので、履修者数・履修率については、全ての新入生に再履修者および未履修者を含めた1500名程度が履修できるよう学内での認知度を高め、学生が専攻する分野を問わず、基盤となる素養としてその位置づけを確立したい。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学は京田辺、今出川の2キャンパス体制となっており、所属する学部・学科によって通学キャンパスが異なるが、本プログラムは全学部・学科の【共通学芸科目】区分内の科目として開講し、学部・学科の所在地に関係なく受講できるよう、遠隔授業(オンデマンド型)の授業形態で開講した。 本プログラムは、学部・学科を特定することなく、全ての学生が「データサイエンス・AI教育」への関心を高めるとともに、その内容を適切に理解し、学生ひとりひとりが専門とする領域において、「データサイエンス・AI」に関する知識・技術を活用するための「基礎的な能力」を育成することを目的としており、その目的等については、教務部主任会を通して各学部・学科と共有することとした。そのうえで、各学部・学科で行われる履修指導(履修前ガイダンス)にて告知を行うなど、より多くの新入生に受講してもらえるように組織的な履修指導を展開している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムは全学部・学科の1年次生を対象とした【共通学芸科目】区分「選択」科目として提供しており、2022年度は新入生の履修登録期間(4月)および秋学期の登録修正期間(9月)にあわせて履修を促すフライヤーを作成し、Web教務システムの機能を用いて、1年次生の上に個別にメールを配信するなど、積極的な告知を行った。また、本学Webサイト内の新入生特設サイトにおいて、文系理系を問わずAI・データサイエンスの知識・スキルを修得することの重要性を発信した。さらに各学科での新入生オリエンテーション期間に行われる履修登録期間において、積極的な履修指導を行うことで、多くの新入生が履修できるよう周知を行った。今後も新入生特設サイトで周知を行うなど、入学予定者への訴求を高めていきたい。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

2キャンパス(京田辺、今出川)体制の本学において、全ての学生に公平であり、かつスムーズな学修サポートを提供するには、授業支援システム(manaba: 本学愛称「マナビー」)を用いた遠隔授業(オンデマンド型)の形態で実施することが必要であった。授業の運営においては約1,100名の受講生を「マナビー」上で15クラスに分割し、それぞれのクラスに担当教員を配置することで、速やかなフィードバックを可能とした。具体的には、毎週月曜日に授業動画を公開し、水曜日までに受講生からの質問を受け付け、15クラスの担当教員は金曜日までにそれらの質問に対する回答を行うこととした。受講生は疑問を解消したうえで、各回の課題(全受講生共通)に取り組み、翌週月曜日までにその課題を担当教員に提出するというプロセスとなっている。出題される「課題」の提出をもって授業の「出席」とみなし、課題を提出しなかった場合は「欠席」として取り扱っている。課題について、3回連続で提出がなかった場合は、「マナビー」の個別連絡機能を用いて、各担当教員が学生に直接呼びかけを行うなど、的確な授業運営およびサポート体制が機能していたと判断している。その結果、2022年度は受講生の93%が修了している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

約1,100名の受講生を授業支援システム(manaba: 本学愛称「マナビー」)上で15クラスに分け、各回の授業動画を月曜日に配信し、授業動画に対する質問を翌々日の水曜日まで受け付けることとした。15クラスの各担当教員は質問を受け付けた翌々日の金曜日までに回答することで、受講生の疑問を解消したうえで、課題に取り組ませることとした。また、「マナビー」上の「小テスト」機能を用いて、15クラスの各担当教員に直接、質問することも可能となっている。また、各担当教員から受講生に個別に連絡事項がある際には、「個別指導コレクション」機能を用いて、受講生に連絡をとるようにしている。

大学等名 同志社女子大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教務部主任会	
(責任者名)	真部 真里子
(役職名)	教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の趣旨を踏まえ、2022年度秋学期、共通学芸科目区分に選択科目として、「データサイエンス基礎」を開講した。文系理系を問わず全学部・全学科の1年次生1,520名を対象とし、1,098名の学生が受講(受講率72.2%)。最終的に1,021名が修了している。2023年度においても2022年度と同様の形態で開講を予定しており、4月の履修登録段階で1,230名が受講する予定となっている。
学修成果	授業支援システム(manaba:本学愛称「マナビー」)を用いた遠隔授業(オンデマンド型)で授業を実施した。各授業回は、毎週月曜日に授業動画を公開し、水曜日までに受講生からの質問を受付、金曜日までにそれらの質問に対する回答を行ったうえで、各回の授業内容に関する課題が課され、学生は翌週月曜日までに課題を提出するというプロセスであった。出題される「課題」を各回の提出締切日までに提出することで授業の「出席」とみなし、課題を提出しなかった場合は「欠席」として取り扱っている。授業の前半(第1回目～第7回目)は、学生の50～60%が難易度について「ちょうどよい」と回答。課題の提出率は平均94%となっている。授業の後半(第8回目～第15回目)は難易度もあがり、課題の提出率は平均90%とやや低下した。授業の難易度は、特にクロス分析、検定の内容を扱った11回目、最終課題のあった15回目ではアンケート結果においても「難しい」の回答が多くなっている。課題の提出率もこの2回と最終課題準備にあたる14回目で低くなっており、難易度が高いため提出を断念した学生がいると考えられる。次年度以降、受講生が途中で修了を断念することがないよう、フォロー体制を強化していくことも今後の課題として挙げられる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	全15回の授業終了後に実施している授業独自のアンケート調査において、各回の授業内容の理解度や、Excelに関する知識とスキル、データサイエンスやAIへの関心度に関する学生の評価を収集した。その結果、授業動画の内容は「わかりやすかった」と評価され、繰り返し動画を視聴しつつ、授業内容を理解したうえで、課題に取り組む学生が多かったことが確認できる。学生のコメントも、「分析の基本となるExcelについて、最初は苦手意識があり不安であったが、繰り返し授業動画をみることで理解を深めることができた。」「遠隔(オンデマンド)授業だったので、効率的に学ぶことができた。」「私たちの社会とデータの関係をさまざまな角度から考え、分析することを通して、データサイエンスの意義を理解することができた。」等、今後のデータサイエンス・AIに関する学びだけでなく、自分自身の専門分野にも活かそうとする姿勢がうかがえた。(全科目共通)授業アンケート(回答者数482名／履修者数1098名／回答率43.9%)の結果を見ても、「この授業は全体として満足できる内容でしたか」という問いに対して、89.2%の学生が「そう思う・ややそう思う」と回答。「あなたは到達目標を達成できたと思いますか」という問いに対しても、83.8%の学生が「そう思う・ややそう思う」と回答していることから、受講生の授業に対する満足度・理解度も高いことが確認できる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムで開講する「データサイエンス基礎」は全学部・学科の1年次生を対象としており、「選択」科目であるが、できる限り優先的に受講するよう履修指導を行っている。その結果、社会システム学科(313名)98%、メディア創造学科(117名)91%、人間生活学科(86名)93%と受講率が90%を超える学科も多く、1年次生の約72%(1098名／1520名)の受講となっている。また、大学案内や本学Webサイトでも本プログラムを積極的に周知しており、特にWebサイトにおいては、科目の目的や内容とともに受講生の感想(コメント)も掲載しており、新入生の受講意欲の喚起につながっている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2023年度「データサイエンス基礎」は「選択」科目での開講となる。各学科での履修指導および2022年度の履修結果(「(全科目共通)授業アンケート結果」「受講生の感想」)等を新入生に周知し、本プログラムが各学部・学科の専門分野の学びの基礎となることを理解してもらうことで、1年次生の履修率100%をめざしたいと考えている。また、2024年度以降はカリキュラム改正を行い、全学部・学科の科目区分に「データサイエンス・AI科目区分」を設け、卒業要件として選択必修2単位を設定し、「データサイエンス・AI基礎」および「データサイエンス・ICT活用基礎」の2科目を開講する予定である。上記の「基礎」科目群の2科目に加えて、「実践」科目群として「データサイエンスのためのAIプログラミング入門」「データサイエンスのための統計入門」「ことばのデータサイエンス」「実践から学ぶAI入門」の4つの選択科目の開講を予定をしている。さらには2024年度以降「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」を構築し、前述した「基礎」および「実践」科目群からそれぞれ1科目以上と本プログラムに係る科目(各学部学科の選定された科目等)をあわせて合計5科目10単位以上を修得した学生には、修了証を発行する予定である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	2022年度より開講したプログラムであり、現在のところ2022年年度の新入生しか履修していないため、本プログラムの「データサイエンス基礎」を履修し、単位を修得して卒業した学生を輩出できていない。当該科目や今後、開講予定のデータサイエンス系科目の単位を修得して卒業した学生の進路調査や活躍状況、企業等の評価については、所管部署と連携を図りながら注視しつつ、学内でも共有していきたい。
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 本プログラムの「データサイエンス基礎」に関して、本学のネットワーク関連協力企業に対して、授業内容の視聴およびテキスト等を説明し、意見および感想を求めた。詳細は以下の通りである。 「データサイエンス基礎」について、社会におけるデータ・AI利活用の概論から留意点など幅広く、実社会の現状を踏まえ、わかりやすく解説されている。データのリテラシーなどは、一般的に使用されているExcelを用いて、統計の基礎を学生にとって身近なデータを扱うことで、より理解できる構成になっている。この「データサイエンス基礎」を履修することで、将来実務におけるデータ解析などの分野で役立つものと感じられる。 学習手法については、授業スケジュールに従ってではあるが、VODで動画を見ながら、手元のパソコンでExcelを実際に操作する。学習者のペースで、動画を繰り返し見ながら作業を進められるため、それぞれの履修者のレベルに応じた進捗で、学習効果も向上するものと感じられる。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	授業の初回、2回目、3回目で本プログラムの目的、目標、データサイエンスやAIについて学ぶ意義を解説している。また、遠隔授業（オンデマンド型）15回のうち、5回目、6回目は「コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎知識」として、Excelを学習する機会を設けた。さらに、Excelで躓いてしまうと、本プログラムに対する受講意欲が低下し、履修を断念する可能性も考えられるので、授業外学習講座として、遠隔授業（オンデマンド型）でExcelに関する基礎的な知識を身につける講座を開講した。シラバスではこの授業外学習講座での取り組み課題等についても全体の10%で評価すると明記している。授業時に利用するテーマについても、10回目「大学ランキングについて考えてみよう」、11回目「アイドルファンのジェンダー差について考えてみよう」、12回目「天気と売上の関係について考えてみよう」、13回目「スマートフォンの利用と生活時間について考えてみよう」など、学生の興味・関心が高く、生活に身近なテーマや実データを用いながら学ぶことのできる内容としている。また、8回目終了後、受講生に「ライフログ」アンケートを実施し、その「ライフログ」アンケート結果をもとに、14回の授業で修得した知識・スキルを駆使して、各自で仮説と分析を行い、表やグラフを用いて最終課題を提出することとしている。この「ライフログ」アンケートについても、実際の受講生のアンケート結果（有効回答数983件）を用いることになるので、受講生は小規模ではあるが、リアルな実データを用いての考察に取り組むことで、数理・データサイエンス・AIを身近な素材で学ぶ楽しさに気づいてもらいたいと考えている。 各授業回終了後に実施している独自アンケートにおいても、「今後もExcelを使いこなせるよう学んでいきたい」「データを扱ううえでの基礎知識が身についた」等の前向きなコメントが多かったことから充実した学びであることがうかがえる。 さらに学期末に実施した（全科目共通の）授業アンケート（履修者1098名中、482名が回答（43.9%））でも、「あなたはこの授業の分野または関連の学習分野の学習をさらに深めたいですか」との質問に対して、339名（70.4%）が「そう思う・ややそう思う」と回答していることから、学ぶことの意義、基礎となる知識は身につけることができたと判断できる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	学期末に（全科目共通の）授業アンケートを実施し、受講生の評価結果を踏まえたうえで、今後に向けた振り返り等の授業改善の取り組みを継続的に行っている。また、授業の各回においても理解度を確認する独自アンケートを実施している。そのアンケートでは遠隔授業（オンデマンド型）の特性を生かし、受講生の各回の視聴回数についても確認するとともに、学生が感じる各回の授業の難易度についても把握し、次期の授業における「分かりやすさ」の検討に生かしたいと考えている。授業動画については、本学のデータサイエンス・AI分野に対して造詣の深い教員複数名に動画視聴の協力をお願いし、「次年度授業動画を修正する必要がある」もしくは、「今年度の受講生に対して訂正・修正の必要がある」等の要望を確認している。その結果、「今年度の受講生に対して訂正・修正の必要がある」とされた点については、授業支援システム（manaba:本学愛称「マナビー」）を用いて、追加・修正事項等を即時に受講生に伝えることで、授業動画の授業の水準を維持し、状況によっては授業動画を更新することで、内容の向上を図っている。また、次年度以降の授業については、例えばChat GPTのような最新のトピックを授業素材に取り入れるよう工夫し、学生にとって身近なテーマを取り扱うことで、より分かりやすい授業としたいと考えている。

シラバス参照

授業コード／Course Code	057000
科目名／Course Title	データサイエンス基礎
担当者／Instructor	教務部長 梅田 拓也 金子 雄太
キャンパス／Campus	京田辺
開講期／Term	秋学期
時間割／Day & Period	秋学期 月曜日 7講時
FLTナンバー／FLT Number	

授業テーマ／ Course Theme	現代のリベラル・アーツとしてのデータサイエンス	
授業の概要／ Course Summary	近年、ビッグデータやAIやIoTをはじめとする新技術の急速な発展によって、社会や産業のデジタル・トランスフォーメーション(DX)が進展し、新しい社会(Society 5.0)が来ようとしています。これらの技術の推進は、人権問題や環境問題といった世界規模の課題(SDGs)の解決に貢献し、「多様性を内包した持続可能な社会」の実現に資することが期待されています。 このような状況で、大学生の皆さんには、どのような分野の学部学科を卒業したかを問わず、データサイエンスの基礎となる知識や技能をリベラル・アーツとして修めておくことが社会的に求められています。これを踏まえ、この授業では、これからの社会のあり様を考え、そこで求められるデータ分析に必要な基礎知識とコンピュータを活用した分析方法を学びます。	
到達目標／ Course Objectives	・私たちの社会とデータの関係性を倫理的・制度的・技術的な側面から考えることを通して、データサイエンスの意義を理解し、データに基づく課題解決の基礎的な方法論を習得する。 ・表計算ソフトウェアの利用・実習を通して、データの性質に応じて適切な分析手法を選択し、基礎的な集計と統計解析ができるようになる。	
授業方法／ Method of Instruction	【遠隔】オンデマンド型授業	
「授業内容」および「準備学習等の内容」／ Course Contents and Outside Class Work		
	1.	授業内容／Course Contents ・オリエンテーション ・データサイエンスとは 準備学習等の内容／Outside Class Work テキスト P.20～P.21「データサイエンスの必要性」を事前に読んでおく 事前・事後学習時間：45分
	2.	社会におけるデータ・AI活用① テキスト P.2～P.14「社会で起きている変化」を事前に読んでおく 事前・事後学習時間：45分
	3.	社会におけるデータ・AI活用② テキスト P.15～P.18「AI時代に求められる人材」を事前に読んでおく 事前・事後学習時間：45分
	4.	データ・AI活用留意事項 テキスト P.28～P.29「データ活用を知る」を事前に読んでおく 事前・事後学習時間：45分
	5.	コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎知識 (Excel①) 第5回授業まで事前課題動画「Excel基礎」を視聴しておく テキスト P.90～P.110 事前・事後学習時間：60分
	6.	コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎知識 (Excel②) テキスト P.38～P.48「グラフの表現」 テキスト P.111～P.116「グラフ作成」を事前に読んでおく 事前・事後学習時間：45分
	7.	データを物語る テキスト P.22～P.23「データ活用のプロセス」を事前に読んでおく 事前・事後学習時間：45分
	8.	収集したデータの取り扱い方法を知る 「データの表現」に関する部分(テキスト P.24～34、P.118～121、P.175)を事前に読んでおく 事前・事後学習時間：45分
	9.	データリテラシー(統計の基礎知識)1 Excel操作の復習をしておくこと 事前・事後学習時間：60分
	10.	データリテラシー(統計の基礎知識)2 分析手法を知る(テキスト P.126～P.133)を事前に読んでおく 事前・事後学習時間：45分
	11.	データリテラシー(統計の基礎知識)3 分析手法を知る(テキスト P.140～P.145)を事前に読んでおく 事前・事後学習時間：45分
	12.	データリテラシー(統計の基礎知識)4 分析手法を知る(テキスト P.140～P.145)

		事前・事後学習時間:45分
	13.	データリテラシー(統計の基礎知識)5 分析手法を知る(テキスト P.146～P.149) 事前・事後学習時間:45分
	14.	ライフログを元にした データ分析を行う① データの表現(テキスト P.164～P.174)を事前に読んでおく 事前・事後学習時間:45分
	15.	ライフログを元にした データ分析を行う② データの表現(テキスト P.164～P.174)の内容を改めて確認しておく 事前・事後学習時間:45分
受講者へのメッセージやアドバイス／Message and Advice to Students	受講者は別途の授業外学習(Excel基礎の動画教材)を視聴し、Excelの操作に慣れるようにしておいてください。(評価対象に含まれます)授業では毎回課題がありますので、授業動画をよく確認して、各課題に取り組み、期限内に提出してください。本講座はオンデマンド授業のため、各自でスケジュール管理を行う必要があります。期限内に課題を提出し、データサイエンスの基礎を身に付けましょう。	
フィードバックの方法／Methods of Feedback	授業支援システム「マナビー」を使って、課題の実施、提出を行います。フィードバックに関してもマナビーにて行います。	
成績評価方法、成績評価基準／Assessment Policy and Criteria	評価方法／Methods of Assessment	割合(%)／Ratio
	授業内課題	70%
	事前課題(「Excel基礎」)	10%
	総合課題	20%
	評価基準／Assessment Criteria	
	学習内容の理解度を、課題を通して評価を行う	
	事前課題の取り組みを課題等を通じて評価する	
	授業内で学習した知識・技能が反映されているかを総合的に評価する	
教科書／Textbooks	No 教科書／Textbooks 1. はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス 【noa出版】	
参考文献等／References		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力(DWCLA10)	分析力、思考力、自己管理能力	
教員との連絡方法／Contact Information	質問などあれば、授業支援システム「マナビー」にて連絡してください。	

音楽学科各コース共通

（2021年度以降入学生適用）

共通学芸科目

外国語科目

キリスト教・同志社関係科目

スポーツ・健康科目

共通学芸科目（最低12単位〔音楽文化専攻は10単位〕以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1	新設 2022年度以降入学生のみ履修可	
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1		
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

2021～OE/OB音楽共通

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1		
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2		
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目(単位認定の頁を参照)					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠA、ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配付資料（3月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

学芸学部 メディア創造学科

(2018年度以降入学生適用)

カリキュラム

学芸学部

メディア創造学科

(2018年度以降入学生適用)

共通学芸科目（最低12単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1	新設 2022年度以降入学生のみ履修可	
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1		文化人類学A
文化人類学B	2	半2	1	変更 廃止	
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1		
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

2018～MS

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち、左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1		
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2	変更	インターンシップⅠ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目(単位認定の頁を参照)					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠA、ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
集中講義の登録方法は別紙参照。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

学芸学部 国際教養学科

(2021年度以降入学生適用)

共通学芸科目（最低8単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1	新設 2022年度以降入学生のみ履修可	
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1		
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

2021～K

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2		
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1		
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2		
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目(単位認定の頁を参照)					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠA、ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配付資料（3月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

現代社会学部 社会システム学科

(2018年度以降入学生適用)

共通学芸科目 (最低10単位以上)

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1	新設 2022年度以降入学生のみ履修可 L,S,SK履修不可	
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1		
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学A
文化人類学B	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち、左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1		
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2	変更	インターンシップⅠ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目 (単位認定の頁を参照)					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる(「他学科科目一覧表」のページを参照すること)。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ(大学コンソーシアム京都)」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。
「インターンシップⅠA, ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。
「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料(3月下旬発表)で確認すること。
「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム(秋学期開講科目)は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情(中国)」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。
「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示(5月頃)で確認すること。
「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。
「大学生生活とキャリアデザインⅠ, Ⅱ, Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

現代社会学部 現代こども学科

(2022年度以降入学生適用)

カリキュラム

現代社会学部

現代こども学科

(2022年度以降入学生適用)

共通学芸科目（必修科目 6 単位を含めて最低12単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考
教育と人間				
保育原理	2	秋2	1	必修 必修 必修
教育の原理	2	半2	2	
発達と学習の心理学	2	半2	2	
教育の制度と経営	2	半2	2	
教職実践演習(幼・小)	2	半2	4	
人間と思想				
哲学A	2	半2	1	
哲学B	2	半2	1	
西洋の思想A	2	半2	1	
西洋の思想B	2	半2	1	
日本の思想A	2	半2	1	
日本の思想B	2	半2	1	
人間と環境				
宇宙の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可
地球の科学	2	半2	1	
生命の科学	2	半2	1	
自然人類学	2	半2	1	
物質の科学	2	半2	1	
生活環境の科学	2	半2	1	
自然科学史	2	半2	1	
環境社会論	2	半2	1	
科学技術と人間	2	半2	1	
心理学A	2	半2	1	
心理学B	2	半2	1	
人格心理学	2	半2	1	
臨床心理学	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1	
女性のための医学	2	半2	1	
人間と社会				
日本国憲法	2	半2	1	L,S,SK履修不可
国際社会と法	2	半2	1	
法と市民生活	2	半2	1	
国際関係論A	2	半2	1	
国際関係論B	2	半2	1	
国際社会と経済A	2	半2	1	
国際社会と経済B	2	半2	1	
日本経済のしくみ	2	半2	1	
人間と社会A	2	半2	1	
人間と社会B	2	半2	1	
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1	
マスコミュニケーション論A	2	半2	1	
マスコミュニケーション論B	2	半2	1	
情報と社会	2	半2	1	
データサイエンス基礎	2	秋2	1	
社会保障と福祉	2	半2	1	
介護概説	2	半2	1	
女性と社会				
女性と社会	2	半2	1	
日本女性史	2	半2	1	
外国文学と女性A	2	半2	1	
外国文学と女性B	2	半2	1	
日本文学と女性	2	半2	1	
文化と歴史				
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1	欠講 欠講
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1	
中国文化研究A	2	半2	1	
中国文化研究B	2	半2	1	
日本の歴史と文化A	2	半2	1	
日本の歴史と文化B	2	半2	1	
日本文化論	2	半2	1	
文化交流史	2	半2	1	
文化人類学	2	半2	1	
アメリカ地域研究A	2	半2	1	
アメリカ地域研究B	2	半2	1	
アジア地域研究A	2	半2	1	
アジア地域研究B	2	半2	1	
日本古典芸能A	2	半2	1	
日本古典芸能B	2	半2	1	
美術史	2	半2	1	
音楽と諸芸術	2	半2	1	
音楽と社会	2	半2	1	
現代の音楽	2	半2	1	
映像文化論	2	半2	1	
京都の文化と歴史				
京都の文化A	2	半2	1	欠講
京都の文化B	2	半2	1	
京都の文化C	2	半2	1	
京都の文化D	2	半2	1	
京都の文化に触れるA	2	半2	2	
京都の文化に触れるB	2	半2	2	
京都の文化に触れるC	2	半2	2	
京都の文化に触れるD	2	半2	2	
京都の文化に触れるE	2	半2	2	
京都の歴史A	2	半2	1	
京都の歴史B	2	半2	1	
京都の歴史C	2	半2	1	

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考
異文化体験				
海外事情(アメリカ)	4	春2	1	卒業年次生履修不可 卒業年次生履修不可 卒業年次生履修不可・欠講
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	
海外事情(中国)	4	秋2	1	
海外事情(カナダ)	4	春2	1	
交換留学生と学ぶ日本文化				
Japan Studies A	2	秋2	1	欠講
Japan Studies B	2	秋2	1	
Japan Studies C	2	秋2	1	
Japan Studies D	2	秋2	1	
Japan Studies E	2	秋2	1	
現代の諸問題				
テーマ別講義	2	半2	1	欠講
寄付講座	2	半2	1	
キャリア教育科目				
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1	
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2	
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2	
インターンシップⅠA	1	通1	2	
インターンシップⅠB	2	通2	2	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）				
日本語教育能力検定	2			

履修上の注意

共通学芸科目は備考欄に必修と記載されているものを除き、すべて選択科目である。
学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低履修単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。
「インターンシップⅠA、ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。
「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（3月下旬発表）で確認すること。
「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。
「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。
「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。
「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

薬学部 医療薬学科（6年制課程）

（2015年度以降入学生適用）

共通学芸科目（最低6単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1	新設 2022年度以降入学生のみ履修可	
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学A
文化人類学B	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1		
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

2015～Y

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2		
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1		
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2	変更	インターンシップⅠ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の真を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠA、ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（3月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム(秋学期開講科目)は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情(中国)」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

看護学部 看護学科

(2022年度以降入学生適用)

共通学芸科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学 A	2	半2	1		
哲学 B	2	半2	1		
西洋の思想 A	2	半2	1		
西洋の思想 B	2	半2	1		
日本の思想 A	2	半2	1		
日本の思想 B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学 A	2	半2	1		
心理学 B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論 A	2	半2	1		
国際関係論 B	2	半2	1		
国際社会と経済 A	2	半2	1		
国際社会と経済 B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会 A	2	半2	1		
人間と社会 B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論 A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論 B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性 A	2	半2	1		
外国文学と女性 B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化 A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化 B	2	半2	1		
中国文化研究 A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究 B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化 A	2	半2	1		
日本の歴史と文化 B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1		
アメリカ地域研究 A	2	半2	1		
アメリカ地域研究 B	2	半2	1		
アジア地域研究 A	2	半2	1		
アジア地域研究 B	2	半2	1		
日本古典芸能 A	2	半2	1		
日本古典芸能 B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化 A	2	半2	1		
京都の文化 B	2	半2	1		
京都の文化 C	2	半2	1		
京都の文化 D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れる A	2	半2	2		
京都の文化に触れる B	2	半2	2		
京都の文化に触れる C	2	半2	2		
京都の文化に触れる D	2	半2	2		
京都の文化に触れる E	2	半2	2		
京都の歴史 A	2	半2	1		
京都の歴史 B	2	半2	1		

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち左	
発達と学習の心理学	2	半2	2	記科目は共通学芸科目として卒	
教育の制度と経営	2	半2	2	業に必要な単位に算入できる。	
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1		
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠ A	1	通1	2		
インターンシップⅠ B	2	通2	2		
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」

大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠ A, Ⅰ B」

選考は 4 月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れる A～E」

集中講義で実施する。

日程等は登録配布資料（3 月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」

海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約 3～4 週間の海外での研修が含まれる。

選考は 5 月(夏期)、10 月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム(秋学期開講科目)は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情(中国)」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」

交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5 月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」

開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ, Ⅱ, Ⅲ」

「Ⅰ」は 1 年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は 2 年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

表象文化学部 英語英文学科

(2014年度以降入学生適用)

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1	新設 2022年度以降入学生のみ履修可	
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学A
文化人類学B	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

2014～E

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち、左記科目は	
発達と学習の心理学	2	半2	2	共通学芸科目として	
学校教育論	2	半2	2	廃止 卒業に必要な単位に 満たせる。	
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1		
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2	変更	インターンシップⅠ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の真を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。
「インターンシップⅠA、ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。
「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（3月下旬発表）で確認すること。
「教育の制度と経営」
「学校教育論」の単位を修得済の場合は履修できない。
「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム(秋学期開講科目)は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情(中国)」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。
「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。
「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。
「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

表象文化学部 日本語日本文学科

(2019年度以降入学生適用)

共通学芸科目 (最低16単位以上)

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1		
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1	新設 2022年度以降入学生のみ履修可	
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
介護概説	2	半2	1		
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1	欠講 欠講	
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1		
中国文化研究B	2	半2	1		
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1		
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		欠講
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1		
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		
京都の歴史C	2	半2	1		
京都の歴史D	2	半2	1		
京都の歴史E	2	半2	1		

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考
教育と人間				
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち、左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。
発達と学習の心理学	2	半2	2	
教育の制度と経営	2	半2	2	
異文化体験				
海外事情(アメリカ)	4	春2	1	卒業年次生履修不可 卒業年次生履修不可 卒業年次生履修不可・欠講
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	
海外事情(中国)	4	秋2	1	
海外事情(カナダ)	4	春2	1	
交換留学生と学ぶ日本文化				
Japan Studies A	2	秋2	1	欠講
Japan Studies B	2	秋2	1	
Japan Studies C	2	秋2	1	
Japan Studies D	2	秋2	1	
Japan Studies E	2	秋2	1	
現代の諸問題				
テーマ別講義	2	半2	1	欠講
寄付講座	2	半2	1	
キャリア教育科目				
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1	廃止
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2	
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2	
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2	
インターンシップⅠ A	1	通1	2	
インターンシップⅠ B	2	通2	2	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）				
日本語教育能力検定	2			

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる(「他学科科目一覧表」のページを参照すること)。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ(大学コンソーシアム京都)」

大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠA,ⅠB」

選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるA～E」

集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料(3月下旬発表)で確認すること。

「海外事情」

海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム(秋学期開講科目)は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情(中国)」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」

交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示(5月頃)で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」

開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ,Ⅱ,Ⅲ」

「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

生活科学部 人間生活学科

（2022年度以降入学生適用）

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1		
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2		
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1		
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2		
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目(単位認定の真を参照)					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示されている科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠA、ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（3月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻

(2019年度以降入学生適用)

カリキュラム

生活科学部

食物栄養科学科

食物科学専攻

(2019年度以降入学生適用)

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考
人間と思想				
哲学A	2	半2	1	
哲学B	2	半2	1	
西洋の思想A	2	半2	1	
西洋の思想B	2	半2	1	
日本の思想A	2	半2	1	
日本の思想B	2	半2	1	
人間と環境				
宇宙の科学	2	半2	1	
地球の科学	2	半2	1	
生命の科学	2	半2	1	
自然人類学	2	半2	1	
物質の科学	2	半2	1	
生活環境の科学	2	半2	1	
自然科学史	2	半2	1	
環境社会論	2	半2	1	
科学技術と人間	2	半2	1	
心理学A	2	半2	1	
心理学B	2	半2	1	
人格心理学	2	半2	1	
臨床心理学	2	半2	1	
薬の発明・発見Ⅰ	2	半2	1	
薬の発明・発見Ⅱ	2	半2	1	
女性のための医学	2	半2	1	
人間と社会				
日本国憲法	2	半2	1	
国際社会と法	2	半2	1	
法と市民生活	2	半2	1	
国際関係論A	2	半2	1	
国際関係論B	2	半2	1	
国際社会と経済A	2	半2	1	
国際社会と経済B	2	半2	1	
日本経済のしくみ	2	半2	1	
人間と社会A	2	半2	1	
人間と社会B	2	半2	1	
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1	
マスコミュニケーション論A	2	半2	1	
マスコミュニケーション論B	2	半2	1	
情報と社会	2	半2	1	
データサイエンス基礎	2	秋2	1	新設 2022年度以降入学生のみ履修可
社会保障と福祉 介護概説	2 2	半2 半2	1 1	L,S,SK履修不可
女性と社会				
女性と社会	2	半2	1	
日本女性史	2	半2	1	
外国文学と女性A	2	半2	1	
外国文学と女性B	2	半2	1	
日本文学と女性	2	半2	1	
文化と歴史				
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1	
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1	
中国文化研究A	2	半2	1	欠講
中国文化研究B	2	半2	1	欠講
日本の歴史と文化A	2	半2	1	
日本の歴史と文化B	2	半2	1	
日本文化論	2	半2	1	
文化交流史	2	半2	1	
文化人類学	2	半2	1	
アメリカ地域研究A	2	半2	1	
アメリカ地域研究B	2	半2	1	
アジア地域研究A	2	半2	1	
アジア地域研究B	2	半2	1	
日本古典芸能A	2	半2	1	
日本古典芸能B	2	半2	1	
美術史	2	半2	1	
音楽と諸芸術	2	半2	1	
音楽と社会	2	半2	1	
現代の音楽	2	半2	1	
映像文化論	2	半2	1	
京都の文化と歴史				
京都の文化A	2	半2	1	
京都の文化B	2	半2	1	
京都の文化C	2	半2	1	
京都の文化D	2	半2	1	
京都の文化に触れるA	2	半2	2	欠講
京都の文化に触れるB	2	半2	2	
京都の文化に触れるC	2	半2	2	
京都の文化に触れるD	2	半2	2	
京都の文化に触れるE	2	半2	2	
京都の歴史A	2	半2	1	
京都の歴史B	2	半2	1	

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考
教育と人間				
教育の原理	2	半2	2	「履修に関する科目」のうち、左
発達と学習の心理学	2	半2	2	記科目は共通学芸科目として卒
教育の制度と経営	2	半2	2	業に必要な単位に算入できる。
異文化体験				
海外事情(アメリカ)	4	春2	1	
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講
海外事情(カナダ)	4	春2	1	
交換留学生と学ぶ日本文化				
Japan Studies A	2	秋2	1	
Japan Studies B	2	秋2	1	
Japan Studies C	2	秋2	1	
Japan Studies D	2	秋2	1	
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講
現代の諸問題				
テーマ別講義	2	半2	1	
寄付講座	2	半2	1	欠講
キャリア教育科目				
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1	
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2	
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2	
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2	
インターンシップⅠA	1	通1	2	
インターンシップⅠB	2	通2	2	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目(単位認定の真を参照)				
日本語教育能力検定	2			

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」

大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠA、ⅠB」

選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるA～E」

集中講義で実施する。

日程等は登録配布資料（3月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」

海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。

選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。

「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」

交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。

英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」

開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」

「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

カリキュラム

生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻

(2022年度以降入学生適用)

カリキュラム

生活科学部

食物栄養科学科

管理栄養士専攻

(2022年度以降入学生適用)

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1		
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育原理・学校教育論	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1		
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2		
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目(単位認定の頁を参照)					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示されている科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」

大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠA、ⅠB」

選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるA～E」

集中講義で実施する。

日程等は登録配布資料（3月下旬発表）で確認すること。

「京都の文化A～D」の集中講義クラスの単位を2012年度以前に修得済の場合、対応する「京都の文化に触れるA～D」は履修できない。
また、「京都の文化D（大学コンソーシアム）」は2014年度より「京都の文化に触れるE」に変更している。
「京都の文化D（大学コンソーシアム）」の単位を修得済の場合、修得した単位は有効だが、「京都の文化に触れるE」は履修できない。

「海外事情」

海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。

選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。

「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」

交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」

開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」

「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

「大学生生活とキャリアデザイン」の単位を修得済の場合は、開講科目表備考欄に注意すること。

同志社女子大学 教務部主任会申し合わせ

第1条 本学に教務部主任会（以下主任会と称す）を置く。

第2条 主任会は、教務部長の諮問に応じて次の事項を検討する。

1. 登録・試験その他学生の修学上の諸問題に関する事。
2. 学年暦・履修上の規定に関する事。
3. その他必要事項。

第3条 主任会は、教務部長・各教務主任・教務部の課長・係長をもって構成する。

第4条 主任会は、必要に応じて教務部長が招集し、議長となる。

第5条 教務部長が必要と認めたときは、委員以外の教職員の出席を求め意見を聴取することができる。

第6条 主任会の事務は、教務課の所管とする。

第7条 本申し合わせの改廃は、主任会の議を経て決定する。

付則

この申し合わせは、1986年4月1日より施行する。

1991年4月、一部改正

1996年6月、一部改正

同志社女子大学 教務部主任会申し合わせ

第1条 本学に教務部主任会（以下主任会と称す）を置く。

第2条 主任会は、教務部長の諮問に応じて次の事項を検討する。

1. 登録・試験その他学生の修学上の諸問題に関する事。
2. 学年暦・履修上の規定に関する事。
3. その他必要事項。

第3条 主任会は、教務部長・各教務主任・教務部の課長・係長をもって構成する。

第4条 主任会は、必要に応じて教務部長が招集し、議長となる。

第5条 教務部長が必要と認めたときは、委員以外の教職員の出席を求め意見を聴取することができる。

第6条 主任会の事務は、教務課の所管とする。

第7条 本申し合わせの改廃は、主任会の議を経て決定する。

付則

この申し合わせは、1986年4月1日より施行する。

1991年4月、一部改正

1996年6月、一部改正



DWCLAデータサイエンス・AI教育プログラム 取組概要

対象学生

全学部・全学科1年次生

プログラムの修了要件

「データサイエンス基礎」（共通学芸科目区分・選択：2単位）を修得すること。

プログラムの改善や自己点検・評価を行う組織

教務部主任会

身につく力

- ・社会とデータの関係性を倫理的・制度的・技術的な側面から考えることを通して、データサイエンスの意義を理解することができる。
- ・データに基づく課題解決の基礎的な方法論を習得する。
- ・表計算ソフトウェアの利用・実習を通して、データの性質に応じて適切な分析手法を選択し、基礎的な集計と統計解析ができるようになる。

特徴・学びのシステム

- ・文系理系を問わず6学部11学科全ての学部1年次生を対象。
- ・個人のペースで学修可能な遠隔授業（オンデマンド型）で開講

リベラル・アーツ
外国語教育
キリスト教教育
免許・資格取得
AI・データサイエンス教育

1年次生

基礎と学習方法を
みにつける

2年次生

入門・概論を学ぶ

3年次生

より高度な専門性を
磨く

4年次生

専門分野を
究める

DWCLAデータサイエンス・AI教育プログラムとモデルカリキュラム ※対応表

対象科目	単位数	導入 社会におけるデータ・AI活用						基礎 リテラシー			心得 データ・AI活用における留意事項	
		1-1 社会で起きている変化	1-2 社会で活用されているデータ	1-3 データ・AIの活用領域	1-4 データ・AI活用のための技術	1-5 データ・AI活用の現場	1-6 データ・AI活用の最新動向	2-1 データを読む	2-2 データを説明する	2-3 データを扱う	3-1 データ・AIを扱う上での留意事項	3-2 データを守る上での留意事項
データサイエンス基礎	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

全体プログラム名称

(日本語名称)

同志社女子大学データサイエンス・AI教育プログラム

(英語名称)

DWCLA-Educational Program for AI and Data science as Liberal Arts

(DWCLA-ADa)

プログラム名称の由来 (参考)

Ada Lovelace (エイダ・ラブレス)

1815年ロンドン生まれ。詩人のバイロン卿の娘。

数学者ド・モルガンなどの家庭教師から教育を受ける。

バベッジ氏が開発した、パンチカードでプログラムを組めば計算を実行できる解析機関に関するプログラムを作成したとして、世界で最初のプログラマーと言われる。1979年には、アメリカ国防総省が「Ada」と名付けたプログラミング言語を開発している。

科目群と新設する科目数

「基礎」科目群 2科目

「実践」科目群 4科目

卒業必要最低単位

2単位：「基礎」科目群から1科目

「基礎」科目群 （モデルカリキュラム：導入・基礎・心得）

「データサイエンス・AI基礎」：遠隔（オンデマンド型）

「データサイエンス・ICT活用基礎」：対面（情報処理教室）

「実践」科目群 （モデルカリキュラム：オプション）

「データサイエンスのためのAIプログラミング入門」

「データサイエンスのための統計入門」

「ことばのデータサイエンス」

「実践から学ぶAI入門」

:いずれも対面（情報処理教室）